

私は道東の斜里町で生まれ、高校まで過ごしました。子供の頃は探検と称して自転車を乗りまわし、他人の畑や雑木林に入って虫捕りや魚釣りをしていました(今はもちろん現地作業の前に手続きです)。両親が引越してから斜里に帰る機会もなくなりました。斜里岳・知床連山やオホーツク海の懐かしい景色が、南風に乗って漂ってくる製糖工場(中斜里)の強烈な臭いとともに思い出されます。

平成4年に現在の会社に入社して以来、地質調査を担当して19年が経ちました。業務では、調査方法がこれで良いか? 解釈はこれで良いか? 考え込むこともあります。やはり現場を見直すことが大事と感じています。昔のことですが、忘れられない言葉があります。現場に向かう車中、事前に調べたことを話し始めたとき、その上司は“現場を見るまで、その情報はいらぬ”と言うのです。“自分で見て判断する時に先入観は不要だ”、ということなのでしょう。私は、まだまだ後輩に言えません。その情報ウェルカムです。

先日、山越え谷越えササをかき分けて踏査してきました。昼過ぎには足がガクガクしてつまずきますが、後輩の前では平然としています。最近、物忘れが多くなっているのも気のせいと思ひ込みます。

疲れてヘトヘトなのに執拗にちょっかいを出してきて遊びに引きずり込むのが上手な娘と、ちょっと生意気になってきたといいながらクリクリ坊主頭がまだまだ可愛い息子がもう少し大人になるまでは、頭も体もフル回転で頑張らねばと思っている、今日この頃です。まだまだローンもあるし…。

藤原 知行 (ふじわら ともゆき)

●応用理学部門(地質)

勤務先

サンコーコンサルタント 株式会社
札幌支店 技術部 地質課



→ 次号は、新田雅樹さん(応用理学)

私は豊浦町で生まれ、中学校は伊達、高校は室蘭(技術士スワン)、大学は札幌で卒業しました。小学校は2年ずつ三校へ通ったため故郷の意識が薄く、自分の故郷は北海道と決めていました。そんな訳で機械工学科の同級生がほとんど内地のメーカーへ就職する中、私は北海道へ残りました。

私が就職した池田煖房工業(株)は建築物の空調衛生設備の設計施工が生業ですので、“管工事施工管

理士”などの施工に即した資格が優先されており、“技術士”取得者は一人もおりませんでした。技術系最高資格として別格の扱いとなっており、いつかはこの資格を取得したいと考えていました。その後二十年以上時は流れ、何気なく目を通した建設新聞で、様々な分野の技術士が集まり北海道を元気にするためリージョナルステート研究会を設立する記事を読みました。久しぶりのキーワード“技術士”とリージョナルステート研究会の発起人の皆様の心意気に感激し「私も技術士になりたい」と強く意識しました。合格者歓迎会で早速同会に入会し、技術士の端くれとして活動を開始しました。各分野の要職の諸先輩や、ご高名な専門家の皆様と数多く接しさせていただくことができ、技術に限らず様々なご教示をいただけることが大きな喜びと感じています。衛生工学分野は技術士全体の中では少数派ですが、今後のエネルギー問題の解決や環境技術の進展さらには膨大な建築設備老朽化へのリニューアル対策などを遠望すれば、これから社会貢献し活躍できる重要な分野と感じています。今後も努力を続けてゆく所存です。

永瀬 次郎 (ながせ じろう)

●衛生工学部門(空調) /
総合技術監理部門

勤務先

池田煖房工業 株式会社
技術統括部



→ 次号は、金子潤一さん(建設部門)